



ホームページ・http://www.ys-chubu.jp/

## 2009年4月号

「主題」・スローガン

- 国際会長 : 「希望の灯となろう」・「分かち合いは微笑をもって」  
 アジア地域会長 : 「希望の灯となろう」・「より良き奉仕のために共に働こう」  
 西日本区理事 : 「思いやりを持ってワイズライフを！」  
 中部部長 : 「楽しくワイズ、スクラム組んで」  
 プラザクラブ会長 : 「学びを深めつつ、着実な活動を！」

【強調月間:YMCAサービス・ASF】

### 4月例会・今後の予定ご案内

#### 【4月第1例会(プラザワイズデー)】

日時: 4月9日(木)・18:45-  
 場所: 魚々美(ととみ・前名古屋YMCA会館横)052-323-8258  
 内容: 反省会  
 会費: 通常会費(7000円)

#### 【4月第2例会】

日時: 4月23日(木)・18:45-  
 場所: 名古屋YMCA会議室  
 出席者: 役員(大島・櫛田・松永)  
 (義務者)5月担当者(\*\*\*\*)  
 6月担当者(櫛田・後藤)  
 内容: 5月・6月の例会について

#### 【今後の予定】

- 5月第1例会  
 日時: 5月14日(木)・18:45-  
 場所: 名古屋YMCA会議室
- 5月第2例会  
 日時: 5月28日(木)・18:45-  
 場所: 名古屋YMCA会議室
- 第12回西日本区大会  
 日時: 6月6日(土) - 7日(日)  
 場所: 大会会場・熊本市市民会館
- 6月第1例会(POM)  
 日時: 6月20日(土) - 21日(日)  
 場所: ホテル美輝 0576-47-2641  
 〒509-2615 岐阜県下呂市馬瀬西村 1695

第69回ワイズメンズクラブ国際協会・国際大会  
 日時: 2010年8月5日(木) - 8日(日)  
 場所: パシフィコ横浜

◆例会および各種行事の出欠席は、連絡主事の万福寺さんへ  
 開催前日の午後5時までにご連絡ください。

### 3月例会・その他行事の出欠表 (敬称略)

役員	会員氏名	出席者			算定
		1	2	M	
会長	大島 孝三郎	○	○	◎	○
	小澤 幸男	○	○	○	○
書記	櫛田 守隆	○	○	◎	○
直前会長	後藤 猛	○	○		○
	島崎 正剛	○	○	○	○
副会長	鈴木 誉三	○	○	◎	○
	高田 廣	○	○	◎	○
会計	松永 裕子	○	○	○	○
	横井 豊				
連絡主事	万福寺 昭美	○	○	○	○
広義会員	山本 茂樹				
ゲスト					
(M)	1. 中部評議会				
*メーキャップ	2. チャリティーステージ				
*部会・Yの 主催行事					
出席率合計・(算定合計/会員数)					90.0%
1. ニコボックス ・当月/累計		6600	40624		
2. オークション		0	31300		
3. 切手		0	0		
ファンド ・当月合計/累計		0	71924		
◆次月号の寄稿者は島崎さんです。 Eメール・moritaka_kushida@ybb.ne.jp					

### 3月第1例会報告

日時：3月12日(木)・18:45-20:30

場所：名古屋YMCA会議室

#### 1.卓話：「ノーベル賞物語」

講師：池田千晶氏(中日新聞社 社会部記者)

1989年(平成元年)中日新聞社に入社、同年彦根支局に配属後、東京本社、大阪支社、名古屋本社に異動、05年9月から3年間ロンドン特派員を務め、08年名古屋本社に戻り社会部を担当する女性記者です。

昨年10月7日ノーベル物理学賞に米国籍の南部洋一郎、小林誠、益川敏英3氏の発表がありました。小林、益川の両氏は名古屋大学の卒業生であり、地元新聞社として以前から「ノーベル賞受賞の可能性のある人」を予想して2人の業績や写真など完璧に準備した予定稿はあったが、さらに記事を補足するために発表と同時に社会部全員がご家族やご近所の方、お友だちにインタビュー取材などをして最終締め切りを過ぎた2時に送稿する慌しさでした。翌8日にはノーベル化学賞をボストン大学名誉教授の下村脩氏が受賞、全くノーマークのためネットで検索すると名古屋大学で理学博士を取得されている。地元紙として見過ごすわけにはいかず、いろいろ手を尽くして調べて発表から2時間後には30本ほどの原稿が出来上がっていました。

取材で苦労したのは02年ノーベル化学賞を受賞した田中耕一さんのときでした。当時、カーボンナノチューブの発見者飯島澄男 NEC 研究員をマークして、ノーベル賞発表当日は各新聞社の記者が NEC の本社に詰め掛けていましたが、予想に反して田中さんの発表に動転した記者連中は、関係のない NEC の広報の人に「田中耕一って誰ですか」と詰問するトンチンカンな場面がありました。当然知るはずもなく、帰社後ネットで調べた「愛媛大の田中耕一さん」に電話すると「あなたで10人目です」の返答、同姓同名の人違いだった、という苦い思い出があります。

小澤さんのお友だちの小出常務から出た案を尊重して、12月のノーベル賞授賞式の日に合わせて連載記事を書くことになった。取材はまず地元で縁の深いお2人の周辺の方々、家族、親類縁者、幼稚園から大学までの友だちや同級生、学校の先生など1ヶ月の間に40人ほどの方とお会いしていろいろなエピソードを聞き出し、それを本人に確認する作業を進めました。ときにははっきり覚えていないこともあったが、「そうかなぁ」と曖昧な返事でも「あったこと」にした。たとえば小林さんが中学1年生のとき、恩師に版画の年賀状を送ったことを忘れていたようだが、現物があることで記事にしました。

2才の時に父を亡くした小林さんは、母と2人だけ

の暮しのためか、小さいときから「しっかりしなければ」、「こうあらねば」の意識が常にあったようです。

「影響された先生とか本はありますか」の質問に全く無関心で、良くも悪くも周りに影響されない生き方をしてきた、という感じでした。

一方益川さんはユニークな方で奥さんと一緒に取材したとき、質問をするとしばらく黙ることがあり、奥さんが「何か面白いことを言おうと考えている」と半畳を入れるほど。自分の話しに周りはどう反応するだろう、と計算しながら質問に答える、少々神経質な人のように感じられました。

今回の取材を基に昨年12月、「ノーベル賞物語」の題で連載いたしました。大幅加筆、授賞式のときの講演や写真などを加えて本になります。お買い上げ、よろしくお願いいたします。

#### 2.次期クラブ役員選出・鈴木

会長	鈴木 誉三
副会長・ファン	松永 裕子
書記・広報	櫛田 守隆
会計	高田 廣
直前会長	大島 孝三郎
YMCA サービス	後藤 猛
EMC	島崎 正剛
地域奉仕	小澤 幸男
交流	未定
連絡主事	万福寺 照美

#### 2.中部部会開催会場決定・大島

名鉄ニューグランドホテル

#### 3.チャリティーステージ参加者確認・大島

3月21日(土)開催のチャリティーステージ参加者は、相念寺子ども合唱団10人含む27人です。

うち、会場設営お手伝いの方5人は12時半までにご集合ください。

#### 4.次期ロースター改定・大島

住所、電話番号、Eメールなど加筆、削除、訂正などがある場合は、4月第1例会で行います。

#### 5.街頭募金参加者確認・大島

3月28日(土)開催の「ガザ地区の子どもたちへの支援」街頭募金の参加者は、3月第2例会で確認します。

#### 6.ピースキャンプ結団式原稿依頼・櫛田

大島さん、400字詰原稿用紙2枚程度にまとめてください。

### 3月第2例会報告

日時：3月26日(木)・18:45-20:30

場所：名古屋YMCA会議室

- 1.街頭募金参加者確認・大島  
3月28日(土)・大島・鈴木
- 2.4月第1例会(プラザワイズデー)・大島  
日時:4月9日(木)・18:45-  
場所:魚々美(ととみ)  
会費:通常会費
- 3.6月第1例会(POM)・大島  
日時:6月20(土)-21(日)  
場所:ホテル美輝  
会費:未定
- 4.西日本区大会参加者確認・大島  
3月26日現在・大島・島崎
- 5.中部部会講師確定・松永  
講師:大山泰弘氏(日本理化学工業 会長)
- 6.クラブリーフレット作成手順・櫛田  
素案・櫛田→全員討議→万福寺・作成、とする
- 7.募金依頼・大島
  - (1)日本 YMCA 同盟国際青少年センター  
東山荘 100 周年記念事業
  - (2)三重 YMCA  
YMCA 幼稚園小ホール改装  
以上、募金を希望される方は大島まで

## フィリピン・ピースキャンプ結団式・激励会

3月9日から16日までフィリピンのツゲガラオ州で福祉施設および現地の小学校を訪問し、交流と文化体験や平和問題について考えるキャンプに参加する8人の結団式・激励会が、9日午後6時より名古屋YMCAのロビーで行われた。

松本館長の司会により西村清名誉理事の奨励、賛美歌斉唱後服部ボランティア委員長、野村理事長の激励の言葉、徳田団長のメンバーの紹介があった。野村理事長は挨拶の中で、ご自身が50年前にフィリピンを訪れた時の若き日の体験談を感慨深げに披露された。メンバーの中の松原さんは前にもフィリピンの理解を深め、またYMCAサービス・ユース事業の推進の面からも熱い心で参加しておられるようだ。メンバーのうち6人は大学生など若い人たちで、口々にフィリピンを理解し日本の文化も多く伝え、交流をしてみたいと力強く話していた。

メンバー紹介の後、出席者からも激励の言葉が述べられた。息子さん(板倉大輝)を送り出される名古屋グランパスの板倉洋さんは、お子さんの前でもあり少々テレながらの愛情こもった激励の言葉だった。最後に加藤総主事による閉会の辞に続き、メンバー8人はセントレアに向かうジャンボタクシーが待つ玄関前に全員整列し、35人の拍手に送られ旅立

った。わがクラブからは鈴木さんと大島が出席した。(大島 孝三郎)

## 第2回評議会

第2回中部評議会が、21日午後1時半より東別院会館会議室で開かれ、「次期・次々期中部部長指名」および「評議会構成員に関する改正」の2議案が承認された。次いで大島次期部長、渋谷次々期部長(金沢クラブ)の挨拶、次期中部役員紹介、各クラブ会長、各中部主査の近況報告と「メネット会のあり方」について話し合われた。最後に栗原中部監事の講評、閉会の祈り、点鐘で2時半に終了した。

## チャリティーステージ

収益をワイズの地域奉仕およびNPO法人「愛実の会(アミカイ)」の活動支援を行うため西日本区中部は、21日チャリティーステージを開催した。会場の東別院会館には人形劇とマジックをお目当てに、お父さんお母さんに手を引かれたお子さんたち約300人が集まった。

第1部は重度の障がいを持つ方々の人形劇団「紙風船」が演ずる「モコちゃん」。わたくしごとで恐縮ですが、2才の孫娘は「これなあに?」と舞台から問われたイチゴの絵に、「イチゴのシンイチロー君」と大声で答えたそう。 (注: 保育園のお友だち名前は動物や果物、花の名前と一緒に)モコちゃんが成長して蝶になるまでのお話しは難しかったかな、でも小さなお子さんには好評だったようです。

第2部はムッシュ・ピエールのマジシャン、軽妙なおしゃべりから始まった。丸めて手の中に入れた1枚の赤いハンカチが、色を変えて何枚も連なって出て来るありさまは、子どもたちには不思議である。次々にテンポよく繰り広げられる手品に、ときにはパチパチと手をたたき、ポカンと口をあけて驚く表情を傍から見ていると可愛らしくて面白い。ご招待した相念寺の合唱隊の子どもたちも愉しんでくれたようだ。

おわりのことばに加藤総主事が、「はじまる前まで、人形劇とマジックの異質の出し物を心配しましたが、杞憂に終わりました」と言われたのを聞き、「そうだ」と相づちを打つ、素晴らしかったです。

## ちょっといい話(後編)

その人は、しばらく黙っていました。その後こう言われました。「お客様、時間をいただけますか。」

今度は僕がびっくりしました。「お客様がお買いになつた子供用コンピューター、超人気商品で、この店には在庫はございません」これを聞いて、調べてくれたんだなあと、胸が「ぐっ」となりました。「でも支店を探してみれば、一つぐらいはあるかも知れません。もしあれば、今日中に届けさせていただきたいと思います。ちょっと時間をいただけませんか」僕は、「えっ、本当ですか？ 本当にあれば子供は凄く喜びます。お願いします」って言って電話を切りました。電話を切った後、僕の胸は、期待に張り裂けんばかりに「頼む、あってくれよ」そして心待ちにしてピンポンが鳴るのを待ちました。

夜の8時になっても、誰も来る気配はありません。子供たちは、すっかり寝支度ができて、そして彼等は布団の中に入りました。「間に合わなかったな。なかったんだな。今年のクリスマスはがっかりだな。でもこんな時もあるよな」と諦めていた。その時です。9時頃です。「ピンポン」となりました。「よし、来た」小さくガッツポーズをしながらも、僕は何食わぬ顔で子供たちを部屋に残し玄関に行きました。ドアを開け、そしたら、その人がコンピューターを抱えて立っていました。サンタクロースの服を着て。僕は驚きました。「えっ、サンタ？」思わず言いました。そして、その人は言いました。「サンタクロースです。お子さんをお呼び下さい」僕は、漠然とスーツ姿の人を、想像していました。スーツ姿で、代わりのコンピューターを持ってくる、そう思っていました。でも、僕の前に立っていたのはサンタでした。僕は興奮して、子供たちを呼びに行きました。「早く降りておいで」子供たちは、何事かと、どたどた階段を下りてきました。

その人がしゃがんで、子どもたちの目線に合わせてこう言いました。「ごめんね、サンタのおじさん忙しくてね、壊れたおもちゃを持ってきてしまったんだ。ごめんね。はい、これはちゃんと動くからね」「お利口にしていたら、来年もまた来るからね」そういって、頭を撫でてくれました。

僕は、子供達を部屋に戻して、その人にお礼を言いました。「ありがとうございます。本当に子供の夢をつないでくれました。サンタにまでなつただいて、本当にありがとうございます」。その人はこう言いました。「私たちが売っている物はおもちゃではないんです。お客様がおっしゃった夢と感動なんです。それを教えてくださいますと、ありがとうございます」と。「とんでもないです。こちらこそ本当にありがとうございます。こんなことをしていただけるなんて、これから僕は一生あなたの

店からおもちゃを買います。いい社員さんがいる会社ですねー」その人は泣かれました。僕も思わず泣いてしまいました。

その夜はとても不思議な気分でした。眠れませんでした。眠らなくてもいい、そう思いました。「なぜ、あの人はサンタの服で来たんだろう」そう考えるとズーっと思いがよぎりました。行き着いた言葉、それは感動でした。僕はそれ以来、そこのおもちゃ屋で必ずおもちゃを買いました。

私が聞いたちょっといい話でした。(おわり)  
(高田 廣)

## 聖書に由来する語句・慣用句・諺

【目からうろこ(のような物が落ちる)】

【ユダヤ教徒だった『サウロ(パウロ)は、なおも主の弟子たちに対する脅かしと殺害の意に燃えて、大祭司のところに行き、ダマスコの諸会堂あての手紙を書いてくれるように頼んだ、それは、この道の者であれば男でも女でも、見つけ次第縛り上げてエルサレムに引いて来るためであった。(使徒行伝 9.1-2)』とキリスト教徒を迫害していたパウロは、『突然、天から光が彼を巡り照らした。彼は地に倒れて、「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか。」という声を聞いた。彼が、「主よ。あなたはどなたですか。」と言うと、お答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである」(9.3-5)』『サウロは地面から立ち上がったが、目は開いていても何も見えなかった。そこで人々は彼の手を引いて、ダマスコへ連れて行った。(9.8)』イエスはダマスコの弟子アナニヤに、「サウロの上に手を置きなさい」と言われた。彼がその通りにすると、『ただちに、サウロの目からうろこのような物が落ちて、目が見えるようになった。彼は立ち上がって、バプテスマを受け、食事をして元気づいた。そしてただちに、諸会堂で、イエスは神の子であると宣べ伝え始めた。(9.18-20)』 それからのパウロは、小アジアやマケドニアなどローマ帝国領内へ赴き、会堂を拠点にしながらかテモテ、マルコといった弟子や協力者とともに布教活動を行った。】

【現在は、「解けずに悩んでいた問題を解決する糸口が、ふとしたきっかけでつかめること。」(慣用句ことわざ辞典 三省堂)と解釈する。3月18日付日経新聞のコラム春秋は、経済危機克服のための有識者会合を「首相は大張り切りの様子だが、目からウロコの妙案が飛び出すものかどうか。」と皮肉っている。】